

安息日学校のレッスン

三人の天使のメッセージ

第4天使の奉仕 - 最終警告

制作: 第4天使省サバト学校部門 - 警告
決勝 - ブラジル

レッスン1 - 永遠の福音

基本テキスト: 『キリストへのステップ』第1章 - エレン G. ホワイト。

黄金の詩: 「そして、私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た。そして彼は、地上に住む人々、すべての国、親族、言語、人々に宣べ伝える永遠の福音を持っていた。」

アポック。14:6。

日曜日

「そして私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た、そして彼は福音を持っていた。」アポック。14:6。

「ゴスペル」という言葉は「良い知らせ」を意味します。イエスが「主の御霊が……私に福音を伝えるよう油を注いでくださった」(ルカ 4:18)と語られた原文の「福音を伝える」と訳されている同じ用語は、他の箇所でも「良い知らせ」として使われています。……彼らに言った、「恐れるな。「見よ、わたしはあなたたちに大きな喜びの良い知らせを伝えます。それはすべての民にとってのものであります。なぜなら、今日ダビデの町であなたたちに救い主、すなわち主キリストが生まれたからです。」(ルカ 2:10,11)。天使はこの良い知らせを次のように要約しました。「今日、ダビデの町であなたに救い主が生まれました。それは主キリストです。」「神はご自分の民を罪から救ってくださいます」(マタイ 1:21)。このように、福音はイエスが私たちが罪から救うために来られたキリストであることを私たちに告げます。「罪は律法を犯すことです」(ヨハネ第一 3:4)。したがって、イエスが私たちが律法違反から救い、律法に従順にするために来られたことがわかります。そのためには、私たちが持っている力を受け取らなければなりません。

パウロはこう言いました、「私は…罪の下に売られているのです」(ローマ7:14)。私たちが罪から解放する力は「神の力であるキリスト」です(1コリント1:24)。したがって、福音の良い知らせは、キリストの到来の知らせであり、十戒の違反や不従順から私たちが救う神の力です。

1) 福音とは何ですか? (ロマ 1:16)

A.: 「私は福音を恥じていません。福音は、信じるすべての人に救いをもたらす神の力だからです。」(ローマ 1:16)

2) 神の力を受けて救われるには誰を信じるべきですか?

A.: 「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家も救われます。」(使徒 16:31) 「そして、他の誰にも救いはありません。なぜなら、私たちが救われるために天に与えられた名前は他にないからです」(使徒言行録 4:12)。

月曜日

「そして私は別の天使が天国の真ん中を飛んでいるのを見た…」アポック。 14:6。

1) 福音はどこで宣べ伝えられるべきですか？

A.: 「そして、この王国の福音は、すべての国民への証しとして、全世界に宣べ伝えられるでしょう。」(マタイ 24:14)

ヨハネは、天使が福音を宣べ伝えるために空を飛んでいるのを見た。実際のところ、空で何かが起こった場合、見たい人は誰でもそれを見ることができます。神はこの言葉で、福音の良いより、つまり私たちが罪から救い出す神の力としてのキリストの福音がすべての人に宣べ伝えられることを望んでいることを明らかにしています。「神は……すべての人が救われることを望んでおられます」(1テモテ2:3,4)。イエスは私たち一人一人に、「全世界に出て行って、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16:15)と言われます。神は私たちがこの聖なる業において自分の能力のすべてを発揮することを期待されています。

「むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところに行きなさい」(マタイ10:6)。イスラエル人は安息日を守る者でした。福音はまずこの階級の人々に宣べ伝えられなければなりません。他の皆の次に、「あなたがたはエルサレム、ユダヤとサマリアの全土、そして地の果てまでわたしの証人となるでしょう」(使徒1:8)。かつて使徒たちはキリストの呼びかけに答え、「彼らの声は全地に響き渡り、彼らの言葉は世の果てにまで響き渡った」(ローマ 10:18)。パウロは、当時、「福音は……天の下のあらゆる生き物に宣べ伝えられた」(コロサイ1:23)と述べています。そしてイエスは私たちを同じ働きに招いておられます。黙示録の天使には、「すべての国、部族、言語、そして人々に福音を宣べ伝えるという使命がありました(黙示録 14:6)。天使という言葉は、「使者」を意味する原文の翻訳です。私たちはこのメッセンジャーとして召されています。

私たちはあなたの招きに従うでしょうか？

火曜日

「そして、私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た、そして彼は永遠の福音を持っていた。」アポック。 14:6。

永遠という言葉は、常に存在し、決して変化しないものを意味します。聖書は神を永遠のお方と呼び、「今おられる方、かつておられた方、そしてこれから来られる方」(黙示録 1:8)と述べています。福音も同様です。それは創世記の時代と今日も同じであり、将来も同じです。それは最終回で説教されます。新約聖書の時代に、パウロは「聖書は…アブラハムに良い知らせを宣べ伝えた」と宣言しました(ガラテヤ 3:8)。アブラムはパウロより2000年近く前に生きていました。そして彼も同じ福音を受けました。

日曜日のレッスンで、私たちは福音が私たちが罪から解放する神の力としてのキリストの発表であることを学びました。創世記は、この良い知らせがアダムの墮落直後にエデンで語られたことを示しています。エホバ神は蛇にこう言われました。

あなたとその女性の間、そしてあなたの子孫と彼女の子孫の間。それはあなたの頭を傷つけ、あなたはのかかどを傷つけることになるでしょう」（創世記3:15）。これは、その女性の子孫のうちの誰かが来て、蛇であるサタンを倒すだろうという発表でした。サタンはあなたの頭を打ち砕くでしょう。その子孫が人間イエス・キリストでした。ルカ3章では、イエスの母マリアの父である祖父ヨセフから始まり、イエスの母の両親が一人ずつ言及されています。このテキストは、最初の父親であるアダムに私たちを導きます（ルカ 3:38）。イエスはカルバリの十字架でサタンの頭に傷を負わせました。「主権と権力を剥奪し、それを公に示し、同じ十字架の上でそれらに勝利しました」（コロサイ2:15）。物言わぬ羊のように苦しみながら、彼はサタンの邪悪さとその政府の真の原則を公に示し、彼の正義を支持する聖なる者たち全員の同情心を引き裂いた。神の政府はキリストの十字架によってより優れ、賢明で義であると義とされました。

この意味で、イエスはサタンの頭に傷を負わせました。しかし、敵の頭を傷つけるために、イエスは十字架の苦しみに耐えなければなりません。したがって、神は比喩的な言葉で、蛇が彼のかかどを傷つけるだろうと言いました。一時的な傷ですが、キリストの栄光の復活によって癒されるでしょう。

創世記で告げられたキリストの福音は、使徒の時代まで変わりませんでした。そして神は、終末に自分が変わるだろうと考える動機を私たちに与えません。

1) 現代が到来したとき、神は人々に送られた福音を変えるのでしょうか？

A.: 「主であるわたしは変わりません」（マラヤ 3:6）。

水曜日

「そして、私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見ました。そして彼は永遠に宣言すべき永遠の福音を持っていました。」

アポック。 14:6

神は福音が秘密にされるのではなく、宣べ伝えられることを望んでおられます。私たちがそれを受け取ったら、神は私たちがそれを他の人に伝えることを期待されています。福音は神の力であるキリストの発表であるため、それを宣べ伝えることは、罪の解放者としてのキリストを宣べ伝えることになります。

それを宣言しないということは、キリストを告白しないことを意味します。「ですから、人々の前でわたしを告白する者は皆、わたしも天におられるわたしの父の前で告白します。しかし、人々の前でわたしを否認する者は、わたしも天におられるわたしの父の前でもその者を否認するであろう。」（マタ 10:32,33）。したがって、天でキリストによって告白された人は皆、地上でキリストを救い主として宣言したことになります。真のクリスチャンは宣教師として生まれます。彼がキリストを宣べ伝える動機は給料ではなく、彼がイエスのうちに見つけた救い主を他の人にも見つけてもらいたいという願望です。「神の意志に従って自発的に」マスターのために働きます。それは「汚れた貪欲からではなく、喜んで」（1ペテロ5:2）。

1) イエスの告白を拒む臆病な人たちはどうなるのでしょうか？

答え：「しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、殺人者、不品行な者、魔術師、偶像崇拜者、そしてすべての嘘をつく者たちについては、彼らの役割は火と燃える湖の中で行われます。硫黄、それは第二の死である」（黙示録 21:8）。

私たちが非常に多くの恐ろしい罪を犯したにもかかわらず、イエスは私たちに恥じませんでした。私たちは神を恥じることになるだろうか？キリストの無限の犠牲によって救われた人間が、救い主の名を告げることを拒否するのは、天にとって何という不名誉なことでしょう。これは私たちのために支払われたすべての犠牲を無視していることの最大の証拠です。この状況では誰も見つからないようにしましょう。パウロはエペソの人々に、「すべての聖徒たちと私のために、常に祈りなさい…あらゆる忍耐と願いを込めて見守り、口を開いたときに御言葉が与えられ、大胆に神の奥義を知ることができるようにしなさい」と勧めました。私が鎖につながれた使者であるこの福音は、その中で語るべきことを語る勇気を持つためである」（エペソ6:18-20）。私たちも同じことをする必要があります。イエスを宣べ伝える私たちの努力を信頼しても、ペテロのようにイエスを否定することになるだけです。私たちの強みはすべて自分自身の弱さです。神から力を受けることによってのみ、私たちは語るべきように福音を宣べ伝えるのに必要な勇気を得ることができます。

木曜日

「そして、私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た、そして彼は地上に住む人々に宣べ伝える永遠の福音を持っていた。」 14:6。

地上に住む人々は、黙示録 6 章の啓示で聖徒たちを迫害し殺害する人々として言及されています。そして地上に住む者たちの血の復讐をするのか？」（黙示録6:10）。8章では、それらは神の証人の死を記念するものとして見られます。この二人の預言者は地上に住む人々を苦しめたので、彼らは互いに贈り物を送り合うでしょう。」（黙示録 11:10）。神はこの階級の人々に対して、終わりの日に福音を告げ知らせるように命じられます。この仕事はあまり期待できそうにないことが判明した。説教者を殺そうとする人々のために説教してください。しかし、これは私たちの主であるイエスがなさったことです。「彼は自分のものに来ましたが、自分のものは彼を受け入れませんでした。」（ヨハネ1:11）。彼はかつてイスラエルの指導者たちにこう言いました。アブラハムがそうしたことはしませんでした」（ヨハネ 8:40）。そして私たちにに対して、彼は次のように明言しています。もし彼らがわたしを迫害したなら、あなたたちも迫害するでしょう」（ヨハネ15:20）。

神の評価は私たちの評価とは異なります。神は、人間が今日どのような存在であるか、つまり迫害者であり恵みを拒絶するのではなく、人間が神の力によって何ができるか、つまり神聖なものであると見ています。神は私たちに良いたよりを伝えるよう望んでおられます。なぜなら、多くの人が救いの福音の招きを拒否するかもしれませんが、他の多くの人がそれを受け入れるからです。イザヤの預言には、イエスは「自分の魂の労苦の成果を見て満足するであろう。わたしの義なる僕は彼の知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負うであろう」（イザヤ53:11）。彼は恩知らずの人々に対する愛を示し、この愛が多くの人々を変え、彼らに神の子となる力を与えました。私たちは、主がされたように魂のために働き、主がされたように不倶戴天の敵を愛するよう招かれています。そして、すべての終わりに、私たちは魂が永遠に救われるのを見て主の喜びを分かち合い、主の次の言葉を聞くでしょう。

善良で忠実。あなたはいくつかのことに對して忠実でしたが、私はあなたを多くのことに對して支配者にしてあげます。あなたの主の喜びに入りなさい」(マタイ 25:21) 。私たち全員がキリストとともにこの喜びにあずかれますように！

金曜日

「そして、私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た。そして彼は、地上に住む人々、すべての国民、同族、言語、そして人々に宣べ伝える永遠の福音を持っていた。」 14:6。

まとめ：

神は、誰もが知っておくべきメッセージを持っているため、空の真ん中を飛んでいる天使を遣わしました。これは永遠の福音であり、御父が私たちに救い主キリスト・イエスを送ってくださったという良い知らせであり、彼は救いに至る神の力です。神はご自分を信じるすべての人を罪から、神の律法に対する不従順から救ってくださいます。そうです、イエス・キリストを信じる人は皆、イエスが与えてくださる神の力によって十戒に従順になります。このようにして、私たちは人類がかつて墮落した状態、つまりアダムとエバが生きていた神聖で幸福な状態から回復されるのです。福音を受け入れることによって、私たちに對する神の約束が果たされます。わたしは聖なる者だからです」(レビ記11:45)。

天使は直接すべての人に福音を告げるのではなく、人々が目覚め、天使として、神の使者として行動し、福音を告げ知らせるように働きます。神は福音を宣べ伝えるために人間を任命されました。パウロはガラテヤの人々に、「あなたは私を神の御使いとして受け入れてくださいました」(ガラテヤ4:14)と言いました。主は私たちが良いたよりを告げ知らせる者となり、たとえ迫害者や敵、恵みを軽蔑する者に対しても、勇気を持ってそれを宣べ伝えることを期待しておられます。私たちのような人々に。地球に住む人々へ。そして、私たちが神の力を信頼して、この福音をすべての国、部族、言語、人々に伝えるよう努力できますように。パウロはその呼びかけに従いました。しかし、私ではなく、私とともにある神の恵みです。」(コリント15:10)。

神が私たちに祝福し、私たちがこの任務に忠実になるようにしてくださいますように。神の恵みによって、私たちは神の使者であると。アーメン！

レッスン 2 - 最初の天使のメッセージ - 神を畏れ、神に栄光を帰しましょう！

黄金の詩: 「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せよ。神の裁きの時が来たからである。』そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拜しなさい。」アポック。 14:6,7。

「特別な意味で、セブンスデー・アドベンチストは見張り人、そして光の担い手として世界に置られました。彼らには、滅びゆく世界への警告の最後のメッセージが託されていた。神の言葉の素晴らしい光が彼らを照らします。彼らは、第一、第二、第三の天使のメッセージを宣言するという最も厳粛な仕事を託されました。これほど重要な仕事はありません。他のものに注意を奪われてはなりません。」最終イベント、ページ。 41

日曜日

判決の発表

1) 私たちは自分の人生を誰かに語るなければなりませんか？

A: 「私たち一人一人が自分自身について神に説明します。」 「そして神の前に隠れている生き物はいない。しかし、神の目の前ではすべてが裸であり、開かれており、私たちはその神に対して説明をしなければなりません。」 (ロマ 14:12; ヘブライ 4:13)。

「玉座が設置され、古代の者が座るまで、私は見続けました。彼の衣服は雪のように白く、彼の頭の髪はきれいな羊毛のようでした。彼の玉座、炎の炎、そして炎を燃やす車輪。火の川が彼の前から流れ出ました。何千人もの人々が主に仕え、何百万人もの人々が主の前に立った。判決が下され、本が開かれた。」
ダニエル 7:9,10。

ダニエルは天で裁きが始まり、書物が開かれるのを見ました。聖書はこう述べています。「神は、それが善であろうと悪であろうと、あらゆる業と、あらゆる隠された事柄に裁きを下すであろう」。(伝道 12:13,14)。すべての個人のすべての作品が審査されます。そして、その評価は表面的なものではありません。「神はイエス・キリストを通して人間の秘密を裁かれるでしょう」(ローマ 4:13)。

2:16) 。考え、意図と動機、言葉と行動、すべてが徹底的に調査されます。なぜなら、「主は人間が見るようには見ていないからです。」人間は目の前のものを見るが、主は心を見るからだ。」(サムエル 16:7)。

私たちのすべての作品は、知られているものも隠れたものも、忠実に本に記録されています。

詩篇作者はこう言いました。私の涙をあなたの瓶に入れてください。あなたの本には載っていないのですか？」(詩 56:8)。「あなたの目は私の形のない体をご覧になり、あなたの書にはこれらすべてのことが書かれており、それは日々形成されていました。」(詩139 :16)。「ですから、主が来られるまでは、何事も前に裁いてはなりません。主は闇の隠された事柄を明らかにし、心の思いを明らかにしてください」(1コリント4:5)。良い行いも悪い行いも同様に記録されます。そして、主を恐れる者たちと主の御名を覚えている者たちのために、彼の前に記念碑が書かれている。」(マラ 3:16)。「見よ、これはわたしの前に書き記されている……あなたの咎と、あなたの先祖たちの咎が共に記されている、と主は言われる」(イザヤ65:5,6)。

すべての人の行いが正当化されるか非難されるために比較されるルール、正義の基準は、神の聖なる律法、十戒です。「律法なしに罪を犯した人は皆、律法なしでも滅びます。そして、律法の下で罪を犯した者は皆、律法によって裁かれることとなります。律法を聞く者は神の前に義ではないが、律法を行う者は義とされるからである。」(ロマ 2:16,12,13)。したがって、判決で承認されるためには、相応の準備が必要であることがわかります。だからこそ天使は「神を畏れ、神に栄光を帰しなさい」と言うのです。私たちは今週を通じてこの備えに関するメッセージを学びます。

月曜日

「そして私は別の天使が天国の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った」アポック。 14:6,7。

1) 聖霊を受けた後、エリザベスに何が起こりましたか？

A.: 「エリザベスは聖霊に満たされて、大声で叫び、こう言いました。「あなたは女性の中で祝福されています、そしてあなたの子宮の実も祝福されています！」そして、それをどこで私に証明しますか？

私、主の母が私を訪ねて来てもいいでしょうか？見よ、あなたの挨拶の音が私の耳に届いたとき、小さな子供が私の胎内で飛び跳ねて喜んだからです。信じた者は幸いである、主から語られたことは必ず実現するからだ。」（ルカ 1:41-45）。

聖霊に満たされた後、エリサベトは大きな声で話せるようになり、神の靈感を受けた言葉を語り、それは聖書に記録され今日まで保存されています。大きな声で話すということは、御霊の力を借りていることを意味します。私たちがエリサベトのように、聖霊に満たされると、大声で話す天使の役割を果たす力を神から与えられます。

大きな声で説教するという事は、恥ずかしがらずに説教するという事でもあります。十字架上で、「イエスは大声で叫び、霊を捨てられた」（マタイ27:50）。ユダヤ人たちはスティーブンを殺す前に、「大声で叫び、一斉に彼に向かって突進した」。すると彼は「ひざまずいて大声で叫びました。主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と言いました。

（使徒 7:57,60）。誰にでも聞こえるように、大きな声で、はっきりと、勇気を持って。

この勇気はキリストの聖霊によってのみ与えられます。このエージェントだけが、私たちが力と勇気を持って大きな声で話すことを可能にします。これが起こるためには、私たちは伝道活動において聖霊を導こうと努めるべきではありません。私たちが用いなければならないのは神です。「神の御霊に導かれている者は皆、神の子だからです」（ローマ 8:14）。それでは、私たちが力と勇気を持ってメッセージを伝えるための神の道具となれるよう、御霊の注ぎを求め、その導きに身を委ねましょう。

火曜日

「そして、私は別の天使が天国の真ん中を飛んでいるのを見た…大声で言いました :神を畏れなさい。」

アポック。 14:6,7。

1) 主を畏れるとは何ですか？

A: 「主を恐れることは悪を憎むことです。」 「主を畏れることによって、人は悪から遠ざかるのです。」（箴言 8:13; 16:6）。

神を畏れるとは、「あなたの神、主を畏れ、この律法の言葉をすべて守るように気をつけなさい」（申命記31:12,13）と書かれているように、律法に従うことです。「愛は律法を実現するものです」（ロマ 13:10）。したがって、神を畏れることは隣人を愛することでもあります。しかし、あなたはあなたの神を恐れるであろう」（レビ記25:17）。

裁きの規則は法律であるため、黙示録の最初の天使は人々にその戒律と調和する必要性を指摘しています。私たちの天の父は、神を畏れる人の模範を私たちに残してくださいました。それはイエスです。「エッサイの幹からは新芽が芽生え、その根からは枝[イエス]が実を結びます。…そして彼はその喜びを喜ぶでしょう。」主を畏れなさい」（イザヤ11:1,3）。彼は主を畏れることに喜びを感じ、主の律法に従うことに喜びを見出しました。そして彼の命は私たちのものになることができます。そのためには、私たちはただ彼を救い主として信じる必要があります。神はこう約束されました。「そしてわたしは彼らと永遠の契約を結び、彼らから離れず、彼らに善を施す。そうすれば私は彼らの心に私の恐れを植え付けます。」 32:40,41。

イエスはこの契約の仲介者です。「彼はより良い契約の仲介者であるように、より優れた奉仕を獲得されました。」（ヘブライ 8:6）。彼は神にとりなし、

それが私たちに関して成就されるように、つまり神がご自分の畏れ、戒めに従う喜びを私たちの心の中に入れてくださるようと懇願しています。そして、イエスの働きは無駄ではなく、確実に行われます。なぜなら、十字架でのイエスの死は、御父がイエスに応じて契約を履行するという保証だからです。この契約は遺言にたとえられ、遺言者の死亡が約束の履行を保証します。イエスは「新約の仲介者です。そのため、罪の赦しのために死が介入するとき…召された人々がその約束を受け取ることができるように…死があった場所でも遺言は効力を持ちます。」（ヘブ。

9:15,17) 。イエスはすでに亡くなっているので、遺言、契約は果たさなければなりません。そして神は彼の中で、「わたしの恐れをあなたの心に置きます」と言われます。私たちがイエスを救い主として信じるなら、イエスは天国で私たちのために執り成してください。そうすれば神は私たちの心に神の恐れを置き、契約を成就して下さいます。そうすれば、私たちは神の戒めを守り、裁きにおいて承認されるでしょう。それでは、私たちは裁きを恐れるべきでしょうか？まさか、準備は万端なので！

水曜日

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せよ』」アポック。 14:6,7。

1) なぜ人間は神に栄光を帰さなかったのか、と黙示録は述べています。

A.: 「彼らは神の名を冒し…神に栄光を与えるために悔い改めませんでした。」(黙示録16:9)。

もし彼らが悔い改めていれば、神に栄光を帰することができたでしょう。最初の天使のメッセージは、まず「神を恐れよ」という言葉を通して、戒めに従うことの重要性を強調しています。そして、「神に栄光を帰してください」と言って、罪を悔い改めるよう私たちに勧めておられます。悔い改めとは、罪を悲しみ、罪から離れることを意味します。

パウロはコリントの信者たちが真の悔い改めを経験したと述べています。なぜなら、神のみこころに添った悲しみは、救いにつながる悔い改めをもたらす、後悔をもたらすものではないからです。しかし、世界の悲しみは死をもたらします。というのは、まさにこのこと、つまり、あなたが神に従って悲しんでいることが、あなたの中にどれほどの気遣いを生み出していないのか、見てください。

そうです、何という謝罪、何という憤り、何という恐怖、何という切望、何という熱意、何という復讐でしょう。

あなたはすべてのことにおいて、これらの事柄に関して自分が無実であることを証明しました」(IIコリント 7:9-11)。

2) ダビデが真の悔い改めを経験したとき、彼は自分が犯した間違いを後悔しただけでしょうか、それとも新たな従順な心を求めましたか？

A.: 「神よ、あなたの慈しみに従って私を憐れんでください。そしてあなたの多くの慈悲に従って、私の罪を消し去ってください…ヒソップで私を清めてください、そうすれば私はきれいになります。私を洗ってください、そうすれば私は雪よりも白くなります…神よ、私の中に純粋な心を創造し、私の中に揺るぎない精神を新たにしてください。」（詩 51:1-12）。

心から罪を憎み、正しいことをしたいと願うこのような悔い改めは、神によってのみ生み出されます。神は私たちに主に目を向けるよう勧めておられます。

私たちが生きるために、私たちの代わりに死んでくださった救い主、御子を私たちに備えてくださった善意です。「神の親切はあなたを悔い改めに導きます」（ローマ2:4）。

木曜日

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せよ』」アポック。 14:6,7。

1) アカンはどうして神に栄光を帰すことができたのでしょうか。

A.: 「それからヨシュアはアカンに言った。『わが子よ、どうか、イスラエルの神、主に栄光を帰し、神の御前で告白してください。今、あなたが何をしたか話してください。それを私に隠さないでください。』（ヨシュア記 7:19）。

私たちは自分の罪を告白することによって神に栄光を帰します。そうすることで、私たちは自分の失敗の責任が神にあるわけではないことを証します。問題は神の中にあるのではなく、私たちの中にあります。神とその法と政府は正当化されます。したがって、告白には罪の言い訳が伴うべきではありません。「罪は律法を犯すことです」（ヨハネ第一 3:4）。罪を言い訳することはそれを正当化することです。そしてそれを正当化することは、違反を正当化することを意味し、その結果、神とその律法を非難することになります。もし違反が正しいなら、法律は間違っており、法律を与える側も間違っている、というのは明白な結論だろう。

告白は言葉を切り詰めることなく、明確でなければなりません。彼の過ちを認めると、「民はみなサムエルに言った。『私たちが死なないように、あなたの僕たちのためにあなたの神、主に祈ってください。なぜなら、私たちはすべての罪に、自分自身に王を求めるといふ悪を加えたのだからである』（サムエル12:19）。

「私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方であり、私たちの罪を赦し、すべての不義から私たちを清めてくださいます。」（1ヨハネ3:4）裁きの時、私たちが最も必要としているのは浄化されることです。そうすれば、私たちは評価されるときに承認されるからです。そして、最初の天使のメッセージは、「神を恐れよ」と言い、私たちに自分の罪を告白するよう勧めています。それが救いのメッセージであることが分かります。なぜなら、一度信じて従えば、私たちは裁きにおいて承認される立場に置かれるからです。私たち自身の利益のために、それに従いましょう！

金曜日

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せよ』」アポック。 14:6,7。

1) アブラハムはどのようにして神に栄光を帰しましたか？

A.: 「彼に言われたとおりに、自分が多くの国々の父となることを希望に反して信じた者は、『あなたの子孫はこうなるだろう。そして信仰が弱まることなく、彼は自分の体がすでに死んでいると考えていました（彼はほぼ100歳でした）

年)、そしてサラの子宮のクッション。しかし、神の約束を見て、彼は不信仰によって動揺することなく、信仰が強められ、神に栄光を帰しました。」(ローマ4:18-20)

アブラハムは神の約束を信じましたが、約束の成就にすべて反する外見には目を向けませんでした。妻はすでに排卵を止めており、体は麻痺していた。人間のあらゆる観点から見て、彼らに子供が生まれることは不可能でした。しかし、アブラハムは神ができることを信じており、神にとって不可能なことは何もありませんでした。人間の不可能性は、神にとって無限の力を発揮する機会となっただけです。そしてそれが神がなさったことなのです。イサクは、肉の意志ではなく、神の約束の子として生まれました。同様に、イエスも「彼を受け入れたすべての人、彼の名を信じる人々に、神の子となる力を与えました。彼らは血によってではなく、肉の意志や人の意志によってでもなく、神によって生まれたのです。」(ヨハネ 1:12,13)。イエスを信じる人は、自分の力や従おうとする努力によってではなく、イエスの力によって、イエスと調和するよう変えられます。人間に律法への完全な服従を要求することによって、人間には本来不可能なことを要求するのです。「法律は霊的なものです。しかし、私は肉のな者であり、罪の下に売られています」(ロマ 7:14)。しかし、アブラハムと同様に、ここでも人間の不可能性が、神がご自身の力を明らかにし、栄光を現す機会を生み出します。イエスを信じることによって、人はイエスが自分の心を変え、律法に従わせることを受け入れます。アブラハムは信仰によって神に栄光を与えました。イエスとその回復の力を信じる者は誰でも神に栄光をもたらします。そうすることによって、人は戒めを守る者とされ、裁きに備えられるのです。

土曜日

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せよ』」アポック。 14:6,7。

1) 私たちの人生の目標は何でしょうか？

A.: 「ですから、食べるか飲むか、その他何をするかにかかわらず、すべてを神の栄光のために行いなさい。」(1コリント10:31)。

私たちは自分の行いによって神に栄光を帰せるか否かが決まります。主は私たちに、食べるものを通して主の栄光を現す方法を知るよう招いておられます。この点に関してみことばには、「肉を食べたり、ぶどう酒を飲んだりしないのは良いことです」(ロマ 14:21)というアドバイスがあります。菜食主義の食事は神に敬意を表します。ここで私たちは、牛、羊、子羊、鶏、魚、魚介類など、あらゆる種類の動物の死骸の肉を可能な限り避けるべきであることを学びます。「それとも、あなたの体はあなたの内におられる聖霊の神殿であり、あなたが神からいただいたものであり、あなたは自分のものではないことを知らないのですか？あなたは代償を払って買われたのですから。したがって、あなたの体で神の栄光を讃えなさい。」(1コリント6:19,20)。

冒頭の詩はこれまでで最も包括的なものです。それ以外のことをするなら、すべて神の栄光のために行いなさい。これは、人生の中で神を喜ばせ、神の御名を讃えるという人生の最高の目標を持つことを意味します。それは私たち自身のためではなく、神のために生きることです。

この経験をどのように生きればよいのでしょうか？パウロは次のように説明しています。「キリストの愛が私たちに束縛するのは、私たちが次のように判断するからです。一人がすべての人のために死んだなら、すべての人が死んだことになるからです。そして、イエスがすべての人のために死なれたのは、生きている者たちが、もはや自分のためではなく、自分たちのために死んでよみがえられた方のために生きるためである」（IIコリント5:14,15）。私たちが生きるために命を捧げるほどのキリストの私たちに對する愛は、キリストのために自分自身を捧げる動機を常に与えてくれます。

「主に栄光を帰せよ」という福音の言葉は、常にこの動機を持って生きようという私たちへの招きであり、そうすることで私たちの行いは主に栄光をもたらすのです。裁きにおいて、人は「自分の行いに応じて裁かれる」（黙示録20:12）。神に栄光を与える言葉を信じて従う者は、裁きを恐れることはありません。裁きは、彼らの行いが神の意志と調和していることを証明するからです。

今週私たちは、「神を畏れ、神に栄光を帰しなさい」という福音の言葉を信じて従うことが、人々が裁きを受ける備えとなることを見ました。私たち自身の一時的かつ永遠の利益のために、この素晴らしい福音を信じて従うこともできますように。アーメン！

レッスン 3 – 神の裁きの時が来た…

黄金の詩: 「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せよ。神の裁きの時が来たからである。』そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拜しなさい。」アポック。 14:6,7。

日曜日

裁きを示す預言

1) 最初の天使のメッセージで告げられる素晴らしい出来事は何ですか？

A.: 「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た…大声でこう言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せ。神の裁きの時が来たからである』（黙示録14:6,7) 。」

最初の天使のメッセージは、天で始まる裁きの世界を告げます。そして、そのような出来事に関して神の僕たちに確信を与えるのは預言の言葉です。ペテロは、「わたしたちは預言の言葉をさらにしっかりと持っています」（IIペテロ1:19）と言いました。ダニエル書には裁きの幻についての記述が記されています。彼のドレスは純毛のように白かった。そして彼の玉座は火の炎であり、彼の車輪は燃え盛っていた。川が彼の前から流れ出ました。何千人もの人々が主に仕え、無数の人々が主の前に立った。判決が下され、帳簿が開かれた。」（ダニエル 7:8-10）。これが開始される時刻はここでは指定されていません。第 8 章では、幻についての追加の説明が与えられ、そこで裁きの開始の時が報告されています。そして別の聖人が話しかけた彼にこう言いました。「幻はいつまで続くのでしょうか…？」彼は私にこう答えました。

午後と午前中は最大 2,300 回。そうすれば聖所は清められるでしょう。」（ダニエル 8:1,13,14）。7 章と 8 章の幻を簡単に見てみると、どちらも同じテーマ、つまり聖徒たちを迫害し、彼らが墮落した後には天の法廷で裁かれる権力を扱っていることがわかります。第 7 章で天使は次のように述べています。彼は時代と法律を変えることに尽力するだろう。聖徒たちは、一度、何度も、そして半分の間、彼の手に渡されるでしょう。しかし法廷は判決を下し、彼の支配権を剥奪するだろう」（ダニエル 7:25,26）。そして 8 章では、「……継続的で悲惨な罪、そして踏みじられる聖域と軍隊の引き渡しに関する幻はどれくらい続くのだろうか？」（ダニエル 8:13）。

ダニエル 7:25: 聖徒たちは彼の手で渡される

ダニエル 8:13: 聖所の引渡し

どちらの表現も聖徒の迫害を指します。歴史は、この迫害が中世の教皇庁によって行われたことを明らかにしています。西暦 538 年以来、その優位性を保っていました。西暦 1798 年まで、教皇は投獄され、この世の権力を失いました。

預言によれば、その後、裁きが下されることとなります。「しかし、法廷が裁きを受け、彼の支配権を剥奪するであろう」（ダニエル書 7:26）。したがって、天国での裁きは 1798 年以降に始まることになる。追加情報は第 8 章にあり、裁きの時期がより正確に示されている。「聖域と軍隊の引き渡しに関する幻はどれくらい続くのか、彼は私にこう答えた、「夕も朝も二千三百まで。そうすれば聖所は清められるであろう」（ダニエル書 8:14）。他の翻訳では次のように示されています。そうすれば聖所は正当化されるだろう。」ここでは、聖域で行われている活動との関連性は明らかです。そして第 7 章では、示されている働きが判決であることがわかります。「法廷が開かれ、帳簿が開かれた」（ダニエル 7:10）。したがって、ダニエル 8 章の預言は天での裁きを指しています。「彼の裁きの時が来た」という最初の天使の発表は、この預言の成就を示しています。

月曜日

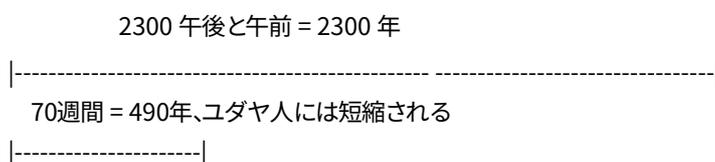
裁きを示す預言 - 続き

裁きを示唆する預言は、ダニエルと彼の同時代人には理解されませんでした。天使は彼にこう言いました。「告げられた夕方と朝の幻は真実です。しかし、あなたはそのビジョンを閉じてください。それは非常に遠い日のことを指しているからです...そして私はそのビジョンに驚きました、なぜならそれを理解する人が誰もいなかったからです。」（ダニエル 8:26,27）。時が経ち、「メディア人の血統であるアハシュエロスの子ダリウスの最初の年に」...ダニエルは神に叫び始め、次のように報告しています。最初視界の中でそれは素早く飛んで来て、午後の献上品の時間に私に触れました。彼は私に指示し、こう言いました...言葉をよく考えてビジョンを理解してください。あなたの民とあなたの聖なる都に、罪を終わらせ、罪を終わらせ、不法を和解させ、永遠の義をもたらし、幻を封印するための 70 週間が命じられる。そして預言、そして至聖所の聖所に油を注ぐことです。」（ダニエル書 9:21-24）。天使は、2300 時の午後の期間の一部を説明することから始まります。

午前中、つまり 2300 日。ダニエルが属していたイスラエルは「あなたの民には七十週間が命じられている」。この用語は「法令」と訳され、元の「チャタク」は文字通り「切る」を意味します。70 週間は、合計 2300 日から区切られた期間です。それらが 2300 日のどの部分に属するかは示されていないため、時間の始まり、つまり 2300 日から数えて最初の 70 週間であると考えられます。

70 週 x 7 日 = 490 日

聖書の預言では、1 日が 1 年に相当することが分かりました。したがって、イスラエルの民のために取られた時間は合計 490 年となりました。以下は、わかりやすくするために図で示したものです。

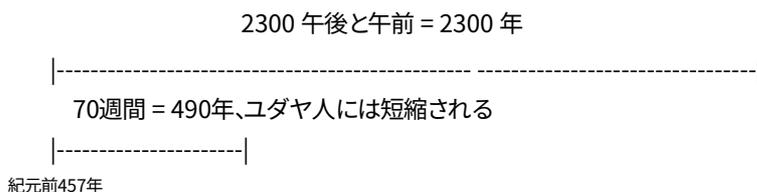


70 週間が合計期間の最初の部分であると考え、カウントの開始点も 2300 日になります。

1) 2300 の午後と午前はいつ開始する必要がありますか？

A.: 「エルサレムを修復し建設せよという命令以来、知っていますし、理解しています」(ダニエル書 9:25)。

これがカウントの開始点です。エルサレムを回復し建設するという命令が出発点となります。歴史によれば、エルサレム建設にはキュロスの布告とダリウスの布告という二つの布告があったことが分かります。しかし預言は、独立した政府の回復とエルサレムの都市の建設という二重の目的を持つ命令を指摘していました。これは、エズラが第 7 章で報告しているように、アルタクセルクセスによって与えられたものです。それは私によって命じられています...あなたの神の家に必要なもの、そしてあなたが与えるのに便利な他のすべてのものは、王の宝物庫から与えるでしょう...そしてあなた、エズラ、知恵に従ってあなたが所有するあなたの神の神が、川の向こうの州にいるすべての人々を裁くために治安判事と裁判官を任命しなさい...そしてあなたの神の法律と王の法律を守らない者は誰でも、その者のために正義が執行されるでしょう。熱心に」(エズラ 7:12、20、25、26)。この命令は紀元前 457 年に発令されました。70 週と 2300 日の数えが始まったのはその時でした。



火曜日

先週

「知って、理解してください。油そそがれた者、君主にエルサレムを修復し建設せよという命令が出されてから、七週間と六十二週間あります。」(ダニエル書9:25)。天使はダニエルに、出発日から 7 + 62 週間を数えるように指示しました。合計69週間。70人、あと1人です。なぜ彼は最後のものを分離したのですか？これは予言の保証印のようなものだからです。「エルサレムは油そそがれた君が来るまで、七週間と六十二週間あるだろう」と彼は言いました。天の君であるイエスは、7 + 62 週間の予言の終わりに「油そそがれる」こととなります。これがどのように完璧な精度で達成されたかは歴史が示しています。69週とは次のとおりです。

$69 \text{ 週} \times 7 \text{ 日} = 483 \text{ 年}$

予言のカウントは紀元前 457 年に始まり、483 年を加えると次のようになります。

483年

|-----|
紀元前457年西暦27年

計算するときは、 $457 + 27 = 484$ 年なので、計算を間違えたと思うかもしれません。日付を数えて紀元前から紀元後へと移るとき、ゼロ (0) という年は存在しないことを覚えておく必要があることがわかりました。次のように数えます: 紀元前 2 年、紀元前 1 年、西暦 1 年、西暦 2 年。(ゼロなし)。457 年から開始して 483 年の時間を追加すると、次のようになります。

$483 - 457 = 26$

ただし、ゼロがないため、カウントは 1 年進みます ($26 + 1 = 27\text{BC}$)。さて、数学についてあまり心配することなく、ただ神の言葉を信じれば、予言がどのように文字どおり成就したかも分かるでしょう。紀元前 27 年、天使によれば、王子には油が注がれるはずですが、油注ぎはオリーブオイルで行われ、聖霊の注ぎの象徴でした。そして歴史は、イエスが紀元前 27 年に油そそがれたことを示しています。これは、70 週間の予言で油そそがれた者の到着が示されている時期と正確に一致します。約500年前に神が予言したことはすべて、厳密に成就しました。私たちの神は素晴らしいです！

水曜日

先週 - 続き

天使は先週についてこう言いました。そして週の半ばには、神はいけにえと奉獻をやめさせるであろう」(ダニエル書 9:27)。

イエスはその契約を結ぶ人でした。パウロはイエスを「より良い契約の仲介者」と指摘しています(ヘブライ人への手紙 8:6)。予言によれば、主はその週の半ばに犠牲をやめるでしょう。

ダニエルの時代に行われた犠牲は、聖域内の動物、主に子羊の犠牲でした。イエスが宣教を始めようとしたとき、バプテスマのヨハネはイエスを指さして、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊です」(ヨハネ1:29)と言いました。彼は真の犠牲者でした。動物のそれらは、罪のために死ぬ小羊として御子を与えるという神の約束を人々の心の中に生き続けるためだけに制定されました。御子が十字架の祭壇で殺されたとき、動物の犠牲はもはや継続する理由がなくなりました。犠牲への信仰を維持する目的で儀式を行う必要はもはやありませんでした。本物はすでに行われており、歴史を振り返るには十分でした。天使はヨハネに次のような言葉でこのことを予告しました。「そして週の半ばには犠牲をやめるでしょう」。70週のうち最後の週は西暦27年に始まりました。したがって、最後の週の半ばから3年半が経ち、西暦31年になります。歴史は、イエスがまさにこの年にカルバリの十字架で死んだことを確認しています。天使の預言は定めの際に成就し、十字架はその正確さを裏付けています。

オブレションも廃止されましたが、パンとワインの捧げ物に与えられた名前であり、これもキリストを表していました。最後の晩餐をとろうとしたとき、イエスはパンを象徴として言及し、パンについて次のように言いました。わたしの記念としてこれをしなさい」(1コリント11:24)。そしてワインに関しては、「彼は杯を取り、こう言いました。この杯はわたしの血による新しい契約です。わたしを記念して、飲むたびにこれをしなさい」(1コリント11:25)。パンとぶどう酒は両方とも神の犠牲を表していました。十字架上で、キリストにあってまことのパンとまことのぶどう酒がささげられました。これらは奉納物として聖域の祭壇に捧げられました。したがって、あたかも救い主がまだ来ていないかのように、聖所の祭壇にそのような供物を捧げることに固執することは、完全に意味を失ったのです。それ以来、イエスが死の前に制定した聖晩餐の儀式を通して犠牲が記憶されるようになりました。それはもはやヘブライの聖域の犠牲によるものではありません。イエスが十字架で死なれたとき、「聖所の幕が上から下まで真っ二つに裂かれた」のはこのためです(マタイ27:51)。

パウロは、イエスが御父にこう言われたと述べています。今彼は言いました「私はあなたのご意志を行うためにここにいます。神は最初のものを取り去って、二番目のものを立てられるのです」(ヘブル10:8,9)。ヘブライ人の聖所とその奉仕は取り去られ、天国の聖所の奉仕が確立されました。そこでは、キリストが動物の犠牲ではなく、罪人のために流された血の功績を神に捧げることになりました。

イエス死去 483 年

油そそがれた十字架

|-----|-----|
紀元前457年西暦27年西暦31年

木曜日

70週間の終わり

これまでのところ、預言は文字通り成就しています。これにより、時間に関する解釈が正しいという確信が得られます。したがって、2300 の午後と午前の終わりがいつになるかを安全に指摘できます。

金曜日

2300の午後と午前の終わり

1) 2300 回の午後と午前の終わりには何が起こるでしょうか？

A.: 「二千三百の夕と朝が来るまで、そして聖所は清められるでしょう」(ダニエル書 8:14)。

私たちはすでにこの期間の最初の部分を学びました。あなた方の民であるユダヤ人には70週間の猶予が命じられています。彼らは西暦 34 年に終わりました。 2300 日を終えるには、1810 日が残ります。

$2300 - 490 = 1810$ 日 / 年

70 週間は西暦 34 年に終了したため、2,300 回の午後と午前は次のように終了します。

西暦34年+ 1810 = 西暦 1844 年。

このとき、預言にあるように、「聖所は清められる」(ダニエル書 8:14)。

聖域の法令

アルタクセルクセスは23:00夕方と朝まで…浄化されます

|-----|

紀元前457年西暦 1844 年

今週の日曜日のレッスンをもう一度読むことをお勧めします。そこでダニエル 7 章と 8 章を比較すると、2,300 日が法廷で判決が始まるまでの時間を示していることがわかります。「法廷が開かれ、帳簿が開かれた」のです。 2300回の夕と朝が1844年に成就した。したがって、天で書物が開かれ、裁きが始まったのはこの時だった。だからこそ、神は黙示録の最初の天使に、「神を恐れ、神に栄光を帰せ。神の裁きの時が来たからである」というメッセージを与えたのだ。（黙示録 14:7）。そのときが来たのは 1844 年のことです。それ以来、最初の天使のメッセージは世界中に力強く響き渡り、多くの人が神の裁きの座の前に出る備えをする必要性を自覚めさせました。彼はあなたをこの天使の働きに参加し、人々に裁きの到来を宣言するよう勧めています。私たち全員がこの天使の働きと一つになることが天の願いです。

土曜日

「そして聖所は清められるであろう」(ダニエル書 8:14)。

聖所という言葉は主にイエスが働く天の建物を指します。

彼は「聖所の奉仕者であり、人間ではなく主が設立された真の幕屋の奉仕者」です。「キリストは手で造られた聖所には入られませんでしたが…ではなく、天そのものに入り、今、私たちのために神の御前に現われました。」(ヘブライ人への手紙 8:2; 9:24)天国の聖所の浄化が始まると、その汚れを取り除く作業が始まります。そしてそれを汚染するものは何でしょうか？人間の罪は、その本に記録されています。法廷が開かれ、帳簿が開かれるとき、神とキリストは信者の罪の記録を消去できるようにすることを目指しています。罪の消去というこの働きは今日まで行われています。しかし、イエスは私たちの許可なしに私たちの罪を消すことはできません。悔い改めと信仰を通して、地上での罪から背を向け、天国で罪を正しく消し去ることができるようにする必要があります。今日罪を消して、明日またそれを記録することに意味があるのでしょうか？1844年以来、イエスは御霊を送り、ご自分の民があらゆる罪から完全に離れるように導かれるよう尽力してきました。二度とコメントしないのが残念です。神はご自分の民と契約を結び、その中で彼らの罪を消し去ると約束されました。わたしはわたしの法律を彼らの理解の中に入れ、彼らの心の中に書き記すであろう。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そして彼は、すべての人に自分の同胞や自分の兄弟に、「主を知れ」と教えてはならない。なぜなら、最も小さい者から最も偉大な者に至るまで、誰もがわたしを知るようになるからである。

わたしは彼らの咎を憐れみ、彼らの罪をもう思い出すことはないからです。」(ヘブライ人への手紙 8:10-12)。このコンサートはここ数日中に開催されます。契約の約束を受け入れる人は皆、罪を消し去られます。神は今日私たちに、神を受け入れてこの祝福された業に参加するよう招いておられます。どうやってするの？イエスを私たちの救い主として受け入れることは、次のように書かれているからです。しかし、彼の内には「はい」がありました… したがって、神の約束がたくさんあるのと同じように、彼の内には「はい」があります。それは彼を通して、アーメン、神の栄光となるからである」(1コリント 1:19,20)。アーメンは「そのとおりです」という意味です。新しい契約の約束は、イエスにおいて「そのとおりです」と定められています。心から神を信じ、粘り強く信じ続ける人は誰でも、人生の中で神のアーメンを見るでしょう。彼は自分のうちに約束を持ち、罪は消されるでしょう。アーメン！私たちはイエスを受け入れます！主よ、私たちのためにこれをしてください！

レッスン 4 – 捜査判決

創造主を崇拝する

黄金の聖句: 「わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に出るからです」(ローマ 14:10)。

日曜日

聖域の浄化

1) 2,300 回の午後と午前の終わりには何が起こるのでしょうか？ダニエル 8:14。

A.: 「二千三百の夕と朝が来るまで、そうすれば聖所は清められるでしょう。」

先週私たちは、「二千三百の夕と朝が来て聖所が清められるまで」(ダニエル書 8:14)という言葉が示すその時を知りました。ここでは、「聖所は清められる」という預言された出来事の研究に焦点を当てます。聖所という言葉は、最初はモーセによって建てられた幕屋として理解されました。神はこう言われました、「そして彼らはわたしを聖所とし、わたしは彼らの間に住むだろう」(出エジプト記25:8)。聖書は、彼が天にある真の聖所の忠実なコピーであると述べています。モーセはこう命じられました。「見よ、山で示された型に従ってすべてを行いなさい」(ヘブライ 4:3)。

8:5)。ピュリフィケーションとは浄化という意味です。したがって、宣言された聖所の浄化は、聖所の浄化です。

二千三百の夕と朝が1844年に終わったことはすでに見ました。この時点では、ヘブライ人の聖域は長い間存在していませんでした。これは西暦 70 年にローマ軍によって破壊され、石一つ残らず、イエスの言葉が成就されました。したがって、建物を浄化することはできません。定められた時に存在し、完全に機能する聖所は、天の聖所となるでしょう。キリストは復活後天に昇り、神によって祭司および「人間ではなく主が設立された聖所と真の幕屋の奉仕者」とされました(ヘブライ人への手紙 5:10; 8:2)。彼は「万物の回復」の時までそこに留まり、その時彼は地球に戻り、彼の忠実な人々を永遠に贖います(使徒行伝3:21)。ヨハネは、黙示録の幻の中で、イエスが天国の聖所、金の燭台の隣で行動しているのを見ました。そして振り返ると、7つの金の燭台が見えました。そして七つの燭台の真ん中には、人の子のようなものがあつた(黙示録 1:12,13)。したがって、預言の中で浄化が指摘されている聖所は、天上の聖所だけである可能性があります。天国の聖所を汚染して浄化の働きを必要とするものは何でしょうか? 空にデゲタ、汚染、ウイルスなどの物理的な不純物が存在するなどという考えは人には考えられません。

しかし、私たちはイエスの名において神に罪の許しを求めるように教えられています。そして、神はこの場所で奉仕し、赦しを得て、私たちの罪に対する正義を与えてくださいます。したがって、これらは何らかの形で天国の聖域を汚すものに違いありません。このことから、彼は浄化される必要があります。

2) イエスが奉仕する聖所はどれですか?ヘブ。 9:24; 8:2。

A.: 「キリストは手で造られた聖所、真の御姿には入られませんが、同じ天国に入られました。」彼は「人ではなく主が建てられた聖所と真の幕屋の奉仕者」です。

月曜日

捜査裁判はいつ始まりましたか?

1) 神は罪を悔い改めて改心した人々に対して、何をしてくれると約束されましたか?使徒 3:19。

A.: 「だから、罪を消し去るために、悔い改めて改心しなさい。」

3) ダビデが自分の罪を神に告白したとき、彼は何を求めましたか。詩篇 51:1。

A.: 「神よ、あなたの慈しみに従って私を憐れんでください。あなたの多くの慈悲に従って、私の罪を消し去ってください。」

罪を消す必要があるとすれば、それはどこかに書かれているからです。聖書には、私たちの行いはすべて天にある書物に記録されていると書かれています。「あなたは私の放浪について話しました。私の涙をあなたの瓶に入れてください。あなたの本には載っていないのですか？」（塩。

56:8）。「主を畏れる者と主の御名を覚えている者のために、御前に記念碑が書かれている」（マタイ 3:16）。したがって、罪を消し去るという神の約束には、これらの本から罪の記録を消去することが含まれます。そして、それらは今日空を汚しているものであるため、それらが消去されると聖域は浄化されます。聖域の浄化には、本から罪を消し去ることが含まれます。

ダニエルは幻視で天国に連れて行かれ、「審判が下され、本が開かれた」と報告しました。この一節の文脈は、この場面が、永遠なる神、したがって日の古人として描写される場所で起こったことを示しています。彼の衣服は雪のように白く、彼の頭の髪はきれいな羊毛のようでした。彼の玉座、炎の炎…何千人もの人々が彼に仕え、何百万もの人々が彼の前にいた。判決が下され、帳簿が開かれた」（ダニエル 7:9、10）。ダニエルは、天で裁きが始まり、神の前で人間の罪の記録が記された書が開かれるのを見た。書物を調査し、心から悔い改めて改心した人々の罪を消し去る働きが始まることになる。裁きは聖所を清める働きとともに始まります。どちらも一緒に行きます。2,300回の午後と午前が、浄化の作業が始まった1844年に終了したことがわかりました。したがって、同日、捜査公判が開始されたものと結論いたします。父は「すべての裁きを子に与えました」（ヨハネ5:22）。「罪を消して永遠の命を与える」か「永遠の死を宣告する」か、各人に宣告を下すかどうかは神次第です。「わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に出ます」（ローマ14:10）。神は自分の事件を評価するとき何と言うでしょうか？

火曜日

捜査法廷で評価されるのはどの事件ですか？

1) イエスを信じない人々はどのような状況にありますか？

答え：「神を信じる者は罪に定められていませんが、信じない者はすでに罪に定められています。神の独り子の名を信じていないからです。」（ヨハネ3:18）

「罪の報酬は死である」。「死はすべての人に広がったので、…すべての人が罪を犯したのです」（ローマ 6:23; 5:12）。したがって、彼らがイエスを信じることを拒否しない限り、彼らは運命づけられています。したがって、彼らは1844年に始まった捜査裁判で自分たちの事件を評価してもらう必要はない。そこでは、イエスを信じた人々の事件だけが考慮されることになる。聖書は、悪人の事件は別の機会に扱われることを明らかにしています。千年の黙示録の終わりに、イエスは彼らを復活させ、彼らに対する最後の判決の宣言を聞き、罰を受けることができるように、彼らを大きな白い玉座の周りに集めます。「そして私は玉座を見た。それは

裁く権限を与えられた者たちが彼らの上に座った。そして私は、イエスの証しと神の言葉のために首を切られ、獣やその像を崇拜せず、額にも手にも獣の刻印を受けなかった人々の魂を見た。そして彼らは千年間キリストとともに生き、統治した。しかし、残りの[邪悪な]死者たちは、千年が終わるまで再び生き返ることはなかった...そして千年が終わると、サタンは牢獄から解放され、国々を欺くために出て行くだろう。彼らは彼に騙されています、それは彼らが復活したからです]...そして私は大きな白い玉座とその上に座っている彼を見た、その存在から地と天は逃げ去り、彼らのための場所は見つかりませんでした。そして、私は死人が大なり小なり玉座の前に立っているのを見た、そして本が開かれた。そしてもう一つの本が開かれました、それは人生の本です。そして死者たちは、その書物に書かれていること、その行いに応じて裁かれた。そして海はその中にいた死者を放棄した。そして死と地獄はその中にいた死者を放棄した。そして、すべての人はその行いに応じて裁かれ、命の書に記されていない者は火の湖に投げ込まれた。」(黙示録 20:5,7)これが最終的な判断です。したがって、悪人の裁きは調査とは別個の仕事です。

内容: 捜査上の判決

最終的な判断

いつ: 1844 年以降

千年の邪悪な年を

誰が裁かれるのか:

信者

経て

イエスを信じた人々の事件は、1844年に始まった調査裁判で評価されています。邪悪な者のことについては後で検討します。黙示録にあるように、彼らは千年後に白い玉座の前に直接現れるでしょう。今日の私たちの選択が、私たちがどの判決に参加するかを決定します。どこにいますか? 今日、私たちに与えられているように、イエスとその恵みを選択して、義人との運命を結びましょう!

水曜日

判断のルール

1) 私たちは何によって判断されるのでしょうか?

A.: 「自由の律法によって裁かれるように、このように話し、そうしなさい。」(ヤコブ 2:12)。

どの法廷でも、被告は法律に従って裁判を受けます。それは彼らが有罪か無罪かを決定する道具です。違反者は非難されます。天の裁きも同様です。地上の裁判所と同様に、神の裁きの規則は神の律法、つまり十戒です。神は常に人間が神の律法に忠実であることを期待してきました。

イスラエルの人々の不従順についてモーセに話し、モーセはこう言いました。「あなたはいつまでわたしの戒めと律法を守ることを拒むのか」。(出16:28)。イエスは私たちに彼女に対する従順の模範を示しました。彼は、「わたしは父の戒めを守りました」(ヨハネ15:10)と言いました。そして彼は、それが永久に有効であり続けることを確認しました。わたしは廃止するために来たのではなく、成就するために来たのです。

本当にあなたがたに言いますが、天地が滅びるまで、すべてが成就するまでは、一銭も一銭も律法から外れることはありません」(マタイ 5:17,18)。

主はすべての人がご自身の律法によって裁かれると宣言されています。そして、律法の下で罪を犯した者は皆、律法によって裁かれることとなります。律法を聞く者は神の前に義ではありませんが、律法を行う者は義とされるのです」（ローマ2:12,13）。そして神の言葉は、私たちの外面的な行動を評価するのに適しているだけではありません。「神の言葉は生きており、力があり、どんな両刃の槍よりも鋭く、魂、霊、関節、骨髄の分裂にさえ刺し通し、人の考えや意図を識別します。心」（ヘブライ人への手紙 4:12）。したがって、心が清められた人だけが裁きにおいて永遠の命に値するとみなされるのです。キリストの御言葉の目的はまさにこれです。私たちを裁きに備えさせるためです。これはすべての人の義務だからです。神は、それが善であろうと悪であろうと、あらゆる業とあらゆる秘密を裁かれるからである」（伝道 12:13、14）。備えるために神の言葉に従うことを望みます。

木曜日

どうすれば法廷で認められるのか

私たちは昨日、天の裁きにおいて永遠の命にふさわしいとみなされるためには純粋な心が必要であることを学びました。しかし実際には、今日ではすべての人が汚れた心を持っています。そして、悪が人々の間に蔓延しているのを見て、多くの人はヨブのようにこう言います。誰でもない！”（ヨブ記 14:4）。しかし、人間には不可能なことも、神には可能です。「神にとって不可能なことは何もありません」（ルカ 1:37）。マグダラのマリアの物語は、イエスがどのようにして罪人を変え、裁きにおいて彼らを義とすることができるかについての客観的な教訓です。彼女は姦淫の現場で捕らえられ、再び主イエスに反抗しようとして激怒したラビたちによって暴力的に連れ去られたのです。「そして、彼らは彼女を真ん中に置き、彼に言った、『先生、この女は姦淫の現場で捕まりました、そしてモーセは律法でそのような女は石打ちにすべきと私たちに命じました。それで、あなたは何と言いますか？（ヨハネ 8:4,5）。彼女は刑の執行だけを望むことができた。法律は明確でした。

彼の罪の目撃者はたくさんいた。彼女に有利な点は何もありませんでした。言い訳しない。

かわいそうな女性は口を開かない。悔い改めた心よ、あなたの唯一の希望は救い主の憐れみと愛です。がっかりしませんでした。彼は告発者たちを解散させるために行動した。「あなたたちの中で罪を犯していない者が最初に彼女に石を投げなさい。そして、再び腰をかがめて、地面に文字を書きました。これを聞いた人々は、長男から末っ子まで、一人ずつ立ち去りました。残ったのは、イエスと真ん中の女性だけでした。するとイエスは背筋を伸ばして、その女以外に誰もいないのを見て彼女に言われた、「女よ、あなたを告発する者はどこにいますか」。誰もあなたを非難しませんでしたか？そして彼女は言いました：主よ、誰もいません。するとイエスは言われた、「わたしもあなたを罪に定めません。行って、もう罪を犯さないようにしなさい。」（ヨハネ 8:7-11）。イエスはその憐れみから、賢明な弁護士として行動されました。悔い改めた女性を弁護し、罪を晴らした。彼の愛は彼女に伝わり、彼女を最も忠実な追随者の一人にしました。「かつてあったものは、今あるものである」。「イエスは昨日も今日も同じです。たとえ今日私たちが非常に罪深いとしても、神は依然として私たちの擁護者であり弁護士です。そして私たちがだけでなく、主を信じるすべての人たちも同様です。

1) イエスは私たちに有利な天の裁きについてどのような立場を取られますか？

A: 「私たちには義なる御父イエス・キリストの弁護者がいます。そして彼は私たちの罪、そして私たちの罪だけでなく全世界に対するなだめの品でもあります。」（ヨハネ第一 2:1,2）。

2) どうすればイエスを私たちの弁護者にできるでしょうか？

A: 「誰でも彼を信じる者は罪に定められません」（ヨハネ 3:18）。

永遠の命の唯一の希望としてイエスを心から信じる人は皆、恥をかかされることはありません。救い主は彼らの大義を訴え、彼らを克服し、救ってくださいます。アーメン！

金曜日

イエスを告白する

確かに、私たちはイエスを信じるだけで、イエスが私たちの弁護者として働いてくださるのです。しかし、私たちは真の信仰の成果が何であるかを理解する必要があります。こうすることで、誤った希望を抱かせることを避けられます。子どもを心から愛する父親や母親は、社会の中で子どもを自分の子として受け入れます。子供が親に対してするのと同じことです。彼は彼らの息子であることを告白し、彼らを恥じていません。たとえ彼らが貧しかったとしても、彼は裕福な友人の前では恥ずかしくて彼らを否定しません。

イエスは私たちを息子として受け入れてくださいました。そのようなものとして、神は私たちがご自分を私たちの永遠の父であり、私たちの信仰の創始者であり、私たちの希望の根拠であると告白することを期待されています。私たちが神を愛し、神を信じるなら、私たちが関わるすべての人よりも先に、私たちとキリストとのつながりを確実に認識するでしょう。そしてイエスは、「人々の前でわたしを告白する者は、わたしも天におられるわたしの父の前で告白します」（マタイ10:32）と言われました。私たちの言葉と行動によって、私たちは神を告白することも、否定することもできます。もし私たちが今日お神を恥じ、友人からの嘲笑や親族からの迫害や差別を恐れて信仰を隠しているとしたら、神が天国で私たちを告白してくださることを期待することはできません。もし私たちがこの地上で主とともに歩みたいと思わないのであれば、どうやって天で主との交わりを楽しむことができるでしょうか。イエスは私たちの願いを理解して尊重しており、この理由から、地上でイエスを告白することを拒否する人々の名前を天の裁きで告白しません。あなたがこの世のものを好むなら、神はあなたの選択する権利を尊重してくださいます。愛に動機づけられた自発的な奉仕のみを受け入れてください。地上でこれを告白する者は天で神によって擁護されるでしょう。

土曜日

勝った人たちへ

聖書には、勝利した者に対する報酬の約束がたくさんあります。私たちにはそれを受ける資格はありませんが、神は地上で忠実なすべての人に報いを用意してくださいました。救われた人全員が天国で同じ立場に就いて働くわけではありません。イエスは、「わたしの報いは、各人にその働きに応じて報いるというものである」と言われました。（黙示録 22:12）。未来に連れて行かれたヨハネは、悪人さえも「人はみなその行いに応じて裁かれた」（黙示録20:13）と報告しました。

人間の業は書物に記録され、裁きの際に評価されるようになっています。「主を畏れる者たちと、主の御名を覚えた者たちのために、記念碑が御前に書かれた」（マラヤ 3:16）。

イエスを信じるすべての人の名前が命の書に記されています。判決の際に、私たちの名前が残るか削除されるかが決まります。「勝利する者は白いローブを着ます、そして私は彼の名前を命の書から消しません。そしてわたしは父と御使いたちの前で御名を告白します」（黙示録 3:5）。

私たちは行いによって救われるのではなく、行いによって裁かれるのです。なぜなら、行いは信仰の結果、つまり成果だからです。かつて神はモーセに、イスラエルの民を解放するための道具として使うからエジプトに行くようにと言われました。彼が御言葉を信じたという証拠は、彼がそこへ旅行したときに与えられました。本当に信じる人はイエスに従います。

したがって、もし誰かが神に従わないなら、それは彼らが信じていないことなのです。使徒ヤコブは次のように書いています。「愚かな人よ、行いのない信仰は無益だということを知りたいですか。……しかし、誰かが言うでしょう。『あなたには信仰がある、私には行いがある。あなたには信仰がある、私には行いがある。行いをせずにあなたの信仰を示さない。そうすれば、わたしも行いによってあなたの信仰を示しましょう。』（ヤコブ 2:20,18）。信仰とは単なる職業や「私は信じます」という言葉ではなく、心に根ざした信仰であり、イエスを唯一の希望とし、イエスの命令すべてに従うよう人を動かすのです。このような信仰によって、シロアムの池で目を洗うようにイエスの命令を受けた盲人は癒されました。彼はその言葉を信じ、従ったので、神は彼を回復させました。

神の裁きは福音を取り消すものではありません。私たちは信仰によって救われるという教えは変わりません。それは、誰が救いのための真の信仰を持っていたかを決定するだけです。

1) 天国に入るのはどの階級の人々ですか？

A.: 「私に『主よ、主よ』と言う人は皆そうではありません。しかし、天におられるわたしの父の御心を行う者は、天の御国に入るであろう」（マタイ7:21）。

御言葉を実践する者は救われます。そして、私たちがそれに従うことができるのは、イエスを信じ、私たちの人生でそれを実現するためにイエスが私たちに与えてくださった力を信じる場合だけです。私たちが御言葉を信じ、私たちの行いがそれを証明するように、私たちが神への信仰を通して勝利者となれますように！

レッスン 5 – 最初の天使のメッセージ – 創造主を崇拝する

黄金聖句：「天と地と海と水の泉を造られた方を崇拝せよ」（黙示録14:7）。

日曜日

創造主とは誰ですか？

最初の天使のメッセージは、私たちに創造主を崇拜するように命じています。聖書によれば、存在は唯一のものとして万物を創造しました。「あなたの救い主であり、あなたを胎内から形作られた主はこう言われます。わたしは万物を造り、ただ一人で天を伸ばし、地を広げた主です」 [誰が私と一緒にいたのですか？] (イザヤ書 44:24) 「神…彼は…ただ一人で天を広げて…あぐま座、オリオン座、プレアデス星団、そして南の部屋を造られた方です。偉大で探り知れないこと、数え切れない不思議なことをなさる方です」 (ヨブ9 :2,5,8,9)。「初めに神は天と地を創造されました」(創世記1:1)。

神は万物を一人で創造されましたが、神にはキリストという伴侶がいました。「彼は初めに神とともにおられました…神なしには造られたものは何もありませんでした。」 (ヨハネ1:2,3)。「水がその命令を破らないように、神が海にその境界を与えたとき、主が地の基を据えられたとき、私は主とともにいて、主の弟子でした。」 (箴言 8:29,30) 神の子は父とともに創造の過程に参加しました。「世界は彼を通して造られました」 (ヨハネ1:10)が、彼は創造者ではなく、神が万物を「造った」道具でした。「すべてのものは彼を通して造られた」 (ヨハネ1:3) 神は言葉、あるいは言葉です (ヨハネ 1:14) 父の創造的な言葉が彼の口であり、創造的な力が自由に使えました。聖書が、「キリストのうちに」、「すべてのものは創造された」(コロサイ 1:16)と言っているのはこのためです。しかし、すべての根源は神でした。彼は創造主であり、キリストを通してすべてのものを単独で造られた方です。天国の住人たちは次のように断言します。あなたは万物を創造され、あなたのご意志によってそれらは存在し、創造されたからです」 (黙示録 4:11) 万物の創造者である永遠の存在エホバは、わたしたちが最高の崇拜と崇拝に値する方です。「ああ、さあ、礼拝してひれ伏しましょう。私たちが創造された主の前にひざまずきましょう」 (詩95:6)。

1) 創造主とは誰ですか？

答え：「初めに、神は天と地を創造されました」(創世記 1:1)

月曜日

1) 神様は何人いますか？

A: 「神は唯一であると信じますか？あなたはよくやっています」 (ヤコブ 2:19)。

創世記から黙示録に至るまで、聖書の中で神への言及は常に単数形、つまり一人の人物に対して行われています。聖書の最初の節には、「初めに神が創造された」(創世記 1:1)と書かれています。「彼らが神を創造した」(複数形)とは書かれていませんが、単数形の神を創造したのです。これは聖書全体で繰り返されています。

「そして神は言われた、『私たちの姿に似せて人を造ろう』」(創世記1:26) 聖書には「彼らは神と言った」ではなく、「そして神は言った」と書かれていることに注意してください。この聖句は、人がどのようにして、

神は別の人に「私たちの姿に似せて人間を造ろう」と勧めています。昨日、私たちはキリストが神とともに創造に参加された方であることを学びました。そうすれば、この聖句は神という人が御子キリストに向かって「私たちの姿に似せて人を造ろう」と言っていることが分かります。

神はご自身の律法を民に伝えるとき、ご自身を一人の人間として示されました。「あなたがたはわたしの前に他の神を持つてはならない」(出エジプト記20:3)。私は「私たちの前に」と言ったのではなく、「私の前に」と言った。たとえば、誰かがグラスを見て「これは私用です」と言ったとしても、そのグラスが3人のグループのためのものであるとは誰も思いません。それはただ一人のためです。

神は二人や三人ではなく一人であるというこの概念は使徒たちにとって非常に明白だったので、彼らは著書の中でそれを何度も繰り返しました。

「神は一人であり、神と人との間の仲介者も一人、それは人であるキリスト・イエスです」(1テモテ2:5)。

「すべてを支配する唯一の神でありすべての父である」(エペソ4:6)。

「しかし、私たちには唯一の神、父がおられるのです」(1コリント8:6)。あなたへ？

火曜日

1) 唯一の神は誰ですか？

A: 「父よ、その時が来ました。「あなたの御子を讃えなさい…そしてこれが永遠の命です。彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたがお遣わしになったイエス・キリストを知るためです。」(ヨハネ17:3)

イエスは、ご自分の父が唯一の神であると積極的に述べられました。「ユニーク」という言葉を聞くと、他にはないことが分かります。父のほかに神は存在しません。イエスはパリサイ人たちに向かって、「わたしは言いました、わたしは神の子です」(ヨハネ10:36)と述べました。彼が誰であるかを定義するには、彼以上に優れた人はいません。したがって、彼自身の言葉から、私たちは次のことを理解します。

「神はただ一人、父である」

「神の御子、主イエス・キリストがおられます。」これが使徒たちの信仰でした。

「しかし、私たちには唯一の神、父がおられるのです」(1コリント8:6)。

「恵み、憐れみ、平安は、父なる神と父の御子イエス・キリストからのものです」(11ヨハネ1:3)。

イエスご自身の啓示に矛盾するために、神の言葉の他の聖句を使用することはできません。私たちがここで言及しているのは、「神」という言葉がイエスに関連して登場する聖書の一節です。不注意な読者は、聖書がイエスが神であることを明らかにしているとして理解するかもしれませんが。しかし、靈感を受けた聖書はそれ自体に矛盾はありません。聖書のさまざまな翻訳を作成する際、著者たちは、その中で次のような言葉を選んだことが判明しました。

理解してください、彼らは彼らの信念と調和しているので、よりよく適合するでしょう。したがって、彼らはオリジナルで明らかだったものを歪曲することになりました。翻訳にはオリジナルの聖書と若干の違いがあり、読者を誤解させる結果となりました。しかし、この問題に関するイエスの言葉に固執する人には、間違える理由はありません。イエスは、「わたしは……真理である」(ヨハネ14:6)と言われました。彼はすべての真実の解説者です。そして、イエスが次のように言われたことを思い出してください。

父について:

「父よ、その時が来ました。「あなたの御子を讃えなさい…そしてこれが永遠の命です。彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたがお遣わしになったイエス・キリストを知るためです。」(ヨハネ17:3)

彼自身について:

「わたしは言いました、『わたしは神の子です』」(ヨハネ10:36)。

多くの人はイエスが父と同じように神であると考えています。しかし、イエスご自身は、父はご自分よりも偉大であると言われました。ヨハネ 14:28 の本文を読んでみましょう。

「イエスは答えました…父は私よりも偉大です。」ヨハネ 14:23,28

水曜日

現代語訳と現代語訳

昨日の学びで、私たちは御父が唯一の神であり御子であるというイエスの啓示を見ました。私たちは、聖書の一部の翻訳に見られるように、誤りを引き起こすテキストの存在についてコメントしました。それらは次のとおりです: ヨハネの第一の手紙 5:7;ローマ人への手紙 9:5。テトス 2:13。ジュード4;ヨハネ 1:1。ヨハネ 1:18。ヘブライ人への手紙 1:8。それらのいくつかについてコメントし、原文に最も忠実な翻訳を提示します。そしてそれはこの主題に関するキリストの教えと調和しています。

ヨハネ第一 5:7:

この節に登場する「地上で証しするのは父、御言葉、聖霊の三人であり、その三人は一つである」というフレーズは、聖書の原文には存在しません。

おそらく、このテキストは、あなたの手にある聖書の中で角括弧内に表示されます (この記号: [_ _])。そして、エルサレム聖書の注釈は、その本文がオリジナルに属していないことを非常に明確にしています。以下を参照してください。

「vv.のテキスト。 7-8は、Vulg.deに、古代ギリシャ語の文書、古代バージョン、およびVulg.の最良の文書にはなかった切り込み (以下の括弧内)が追加されており、本文の後半で紹介される余白の光沢であるように見えます。「というのは、証しする者が三人いるからです (天には父、御言葉、聖霊、そしてこの三人は一つです。そして地上には証しする者が三人います) :御霊、水、血、そしてこれらの者です。三つは一つだ。」

エルサレム聖書、第3刷り、2004年、16頁。2132、2133 (ヨハネ第一 5:7 の脚注コメント - 強調追加)

上記の文を追加せずに、最も忠実なオリジナルのバージョンに従ってテキストを以下に示します。

「それを証するものは三つある、すなわち御霊、水、血であり、その三つは一つの目的で団結しているからである。」ヨハネ第一 5:7

ヨハネ第一 5章7節の原文にはない人間が加えた部分を加えた本文は、三位一体の教義が聖書的事実であることの証拠として多くの人に提示されています。

しかし、テキストを追加せずに聖句を読むと、それが三位一体の存在を証明していないことが非常に明らかになります。それは神の霊、水と血についてのみ語られています。

参考までに、他の物議を醸したテキストの原文の最も忠実な翻訳を紹介します。このテーマについてさらに深く研究し、原文に照らして以下のすべての聖句についての解説を得るには、Editora 4 Anjos から出版された『しかし、私たちにとって神はただ1人、父である』という本を読むことをお勧めします。

「彼らは族長であり、キリストも彼らの子孫です。万物の上におられる神に永遠の賛美あれ！」ローマ人への手紙 9:5。

「祝福された希望と、私たちの偉大な神と私たちの救い主イエス・キリストの栄光の出現を求めています」テトス 2:13。

「誰も神を見たことがありません。父の懐にいる独り子こそが、御子を啓示した方なのです」ヨハネ 1:18。

「というのは、ある特定の人々が、この有罪宣告をずっと前から宣告されていた、不敬虔な人々であり、唯一の主権者である私たちの神と私たちの主イエス・キリストの恵みを放縱に変える不敬虔な人々であり、同化せずに忍び込んでいるからです。」ユダ4。

「初めにことばがあった、ことばは神の中にあった、そして神はことばであった。神は初めに神の中にあった。」ヨハネ 1:1。

「あなたの王座は永遠に神のもので」（ヘブライ人への手紙 1:8 - 詩篇 45:6 の転写）。

木曜日

聖霊

キリスト教の一般的な信念は、聖霊は三位一体の第三位格である神であるということです。しかし、多くの人が知らないのは、「三位一体」という言葉は聖書の中にさえ出てこないということです。その起源は異教です。それはエジプト人、バビロニア人、アッシリア人、ペルシア人、ローマ人のカルトに由来し、コンスタンティヌス帝がキリスト教をローマ人の公式宗教に変えた後、ローマ人によって使徒キリスト教会に導入されました。

帝国。キリスト教会がカトリック（普遍を意味する）となり、「使徒」とローマ人の宗教であるため「ローマ」という名前を維持したのはその時でした。したがって、ローマカトリック使徒教会という名前は今日まで残っています。それは、途方もない残虐行為（神への子供たちの犠牲さえも）を命じた異教の宗教と、太陽崇拝と、純粋なキリスト教の宗教とが混合された結果です。その基本的な教義は次のとおりです。

「三位一体の神秘はカトリック信仰の中心的な教義です。教会の他のすべての教えはこれに基づいています。」（今日のカトリック教徒のためのマニュアル、11ページ）。

「私たちの敵対者（プロテスタント）は、聖書に明示されていない信仰は教義化されるべきではないと時々主張します...しかし、プロテスタント教会自体は、福音書に正確な権威がない三位一体などの教義を受け入れていません。」。（Revista Vida - カトリック、10/30/50）。

また、聖書は聖霊を神として信じることを認めていません。それはその存在を肯定的に肯定します。しかし、どこにも彼が人として、あるいは神として描かれていません。イエスはそれを息に例えてこう言いました。

「そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて、『聖霊を受けなさい』と言われた」（ヨハネ20:22）。

イエスは自分が聖霊であることを明らかにしました。

「見よ、私はドアに立ってノックしている。誰かがわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは彼のところに入って一緒に食事をし、彼もわたしと一緒に……耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。」（黙示録3:20、22）。

パウロは救い主を受け入れなかったユダヤ人の状況について次のように述べています。
イエスは御霊です。

「しかし、彼らの理解は固まりました。なぜなら、今日に至るまで、古い契約が朗読される時、同じベールが残っており、それがキリストにあって廃止されたことが彼に明らかにされていないからである。そうです、今日に至るまで、モーセの手紙が読まれるときはいつでも、彼らの心にベールが掛けられています。しかし、もし彼らのうちの一人が主に立ち返れば、そのベールは取り去られます。」ここまで、ユダヤ人が主イエスに改宗すると、彼の理解を覆い隠していたベールが取り除かれると述べています。そして彼はこう説明します。「今、主は御霊です」（IIコリント 3:14-17）。主イエスは御霊です。

金曜日

掛け布団

「そして、私は父にお願いします。そうすれば、父はあなたに別の助け手を与えてくださいます。それは、彼が永遠にあなたと一緒にいるようにするためです。真理の御霊です。世は彼を受け入れることができません。」

彼を知っています。あなたは彼を知っています、なぜなら彼はあなたとともに住み、あなたの中にいるからです。」ヨハネ 14:16,17

イエスは弟子たちに、彼らはすでに慰め主である真理の御霊を知っていると語り、その理由を次のように語られました。

「あなたは彼を知っています。なぜなら彼はあなたとともに住み、あなたの中にいるからです。」ヨハネ 14:17

イエスは彼らと一緒に生きた人でした。イエスは弟子たちに、慰め主について話すとき、それはご自身のことを話しているということと理解させました。次の言葉はこの考えを強化します。

「私はあなたたちを孤児にはしません、私はあなたのところに行きます。」ヨハネ 14:18

ここでイエスは弟子たちに、自分が慰め主として戻って来られる方であることを明らかにされました。しかし、それでもイエスが再臨のことを言っていると考える人もいるかもしれません。

弟子たちがそのような結論に達するのを防ぐために、イエスは次のように明確にされました。

「しかし、しばらくの間、世界はもう私を見なくなるでしょう。しかし、あなたはわたしを見るでしょう。私が生きているから、あなたも生きるのです。」ヨハネ 14:19

聖書は、イエスが二度目に地上に来られるとき、「すべての目はイエスを見るだろう」(黙示録1:7)と宣言しています。これには世界中のすべての人が含まれます。しかし、イエスは慰め主の到来について語ったとき、次のように言われました。しかし、あなたはわたしを見るでしょう。」イエスが地上への再臨について言及しているのではなく、慰め主としての来臨について言及していることは明らかです。そのときは、信者だけが彼を受け入れるときでしょう。スピリットという言葉は、各聖句の文脈に応じてさまざまな意味で使用されます。しかし、それが約束の慰め主に当てはまる場合、それは「聖霊」という名の神のことではなく、キリストご自身のことを指します。聖霊は「第三の神」でも「三位一体の三人称」でもありません。「神は一人であり、一人の人間、すなわち「父」がおられます（1コリント 8:6）。

2つでもなく、3つでもなく。

土曜日

真の洗礼と唯一の神

多くの人は、マタイ 28 章 19 節に基づいて三位一体の考えを主張しています。

「父と子と聖霊の名において彼らに洗礼を授ける」。このテキストはオリジナルと一致しないことが判明しました。オリジナルの最も正確な研究によると、正しいテキストは、3 世紀の作家、カイサリアのエウセピオスの言及に見られるものです。

彼はマタイ 28:19 を次のように述べています。

「それゆえ、行って弟子を作り、わたしの名において彼らにバプテスマを授けなさい。」マタイ 28:19、原文によると。

謙虚に証拠を比較する聖書研究者なら誰でも、使徒行伝に引用されているバプテスマの記述と一致する唯一のバージョンであるため、上記のバージョンが正しいバージョンであることを確認できます。それらはすべてイエスの名による洗礼を指しています。例として使徒 2章37節と38節を引用します。

1) 使徒たちはイエスの命令に従い、何という名前前でバプテスマを受けましたか。

A.: 「そこでペテロは彼らに言った、『悔い改めて、あなたがた一人一人、罪の赦しのためにイエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるでしょう。』 ...そこで、彼の言葉を喜んで受け入れた人々はバプテスマを受けました。そしてその日、ほぼ3000人の魂が追加されました。 ...
すべての魂の中に恐れがあり、使徒たちは多くの不思議と不思議な行いをしました。使徒 2:38,41,43。

2) バプテスマは何回ありますか？

A.: 「主は一人、信仰は一つ、バプテスマは一つ」エペソ 4:5。

神はイエスの名によるバプテスマの説教を祝福し、3,000人の魂がバプテスマを受けました。神が説教に承認の印を押したことは明らかです。

これは主が承認したバプテスマであり、使徒言行録にある他のすべてのバプテスマもこの名、つまりイエスの名で行われました。したがって、霊的な人なら誰でも、これがマタイ 28:19 で発表されたバプテスマであると安全に結論付けることができます。

イエスは「私の名において」洗礼を命じました。使徒たちは従い、「イエスの名において」バプテスマを宣べ伝えました。そして神はこのバプテスマの説教を祝福し、最初に発表されたときに3,000人の魂を加えました。したがって、現代の聖書に出てくる「父と子と聖霊の名によって彼らに洗礼を受けている」という文章は、それを裏付けるものが何もないため、さらにグロテスクな改ざんであることがわかります。 . 御言葉の別の部分。それは音楽における調から外れた音のようなもので、聖書の中でこの主題を扱っているすべての聖句と衝突します。

聖書の研究からわかるように、マタイ 28 章 19 節に基づく三位一体の主張は地に落ち、キリストによって明らかにされ、使徒によって宣べ伝えられた真理だけが輝きます。彼らはこう言いました。「たとえ、天であろうと地であろうと、[多くの神や多くの主がいるように]神と呼ばれる人々もいますが、それでも私たちにとっては唯一の神、父がおられるからです。」(1コリント8: 5,6) 。そして、最初の天使のメッセージの呼びかけの中に、「天と地と海と水の泉を造られた方を拝みなさい」(黙示録14:7)というメッセージの中に、唯一の創造主である神を崇拝するようという招きが見られます。父よ、私たちはイエスを救い主として崇拝します。多くの人が罪を犯さずに神を崇拝しました。そして私たちがそうすることができます。しかし、私たちは創造主としての父だけを崇拝します。

3) 真の崇拝者は誰を崇拝しますか？

A.: 「しかし、真の崇拝者たちが霊と真理をもって御父を礼拝する時が来ており、今がその時です。父はご自分を礼拝する者を求めておられるからです」(ヨハネ20:23) 。

あなたもその中に入るでしょうか？